



「文字は読めているが、内容を読み取ることがむずかしい。」「行間を読み取る力が、身に付かない。」「計算はできるが、文章問題になると問われていることがわからない。」といった悩みを特別支援学級の先生方のみならず通常学級の先生方からも聞く場面が多くあります。では、文章に書かれている内容や行間に隠された想いを読み取ったり情景を想像したりする力を育てるためにはどうしたらよいのでしょうか。今回は、そのヒントとなる指導の手立て「読みの基本12項目」を御紹介します。

「読み取る力」が育つということは、単に文字が読めればよいということではない。

日常生活の様々な場面で出会う言葉や出来事について、頭を働かせて考えることが必要！

子供たち自身が主体的に物事を考えて  
行動することが「読み取る力」の基盤となります！



意識的な  
言葉かけ

実現する  
ために

意図的な  
環境設定

「読みの基本12項目」を日常生活場面で意識してみましよう！



道路工事を見て、「なぜ、こんなことをしているのだろうか？」「ガス管が破損したのかな？」と考える姿勢をもつこと

① 自分の**身辺の事柄**に意識を向ける。

「隣の家の人の名前を知っているか？」「学校の始業時刻を正確に知っているか？」等

② 常に**意味を考えて行動**する。

だれかの真似ではなく、何のためにしているのかを明確にすること  
「ぼくは〇〇したいからこうしているんだ」

「〇〇さんはこうしたけれど、私だったらどうするかな？」と他人と自分の考えと比較すること

③ 物事の**理由や因果関係**を考える。

「なんのために」「何をどのようにしようとしているのか」を主体的に考えること

場面によって価値判断が変わることについて気付くこと  
「廊下は走ってはいけないが、玄関でお客さんを待たせているときに小走りで移動することもあるんだな。」

④ **比較**して物事を考える。

意味と結びつけて記憶すること  
『親』という漢字は、木の上に乗って子供を見守る姿から作られているんだな

⑤ 自分が**今何をしているか**意識する。

行動する前に、「もし・・・したら」「例えば・・・になったら」「こう言ったら〇〇さんは、どういう気持ちになるだろう。」と考えること

⑧ 先を**予測**して行動する。

全体を意識し、部分を考え、確認すること  
「犬は利口な動物なので家の『ばん』をします。」の『ばん』は「番」なのか？「晩」なのか？

⑨ 物事の全体を見聞きし、**全体と部分との関係**で考える。

落とし物を見つけて「ここに、こんな目印があるから、私のものです。」と常に根拠(理由)をもつこと

⑩ **自分と他人との関係**で物事を考える。

「一緒に帰る友達が待っていてくれるから、係の仕事を早く終わらせよう！」と意識できること

⑪ **根拠をもって**物事を考える。

⑫ 読んで**考えたり、行動に移したり**する。

「読んで行動に移した時にほめられた！」という経験が読む意欲につながる！



<参考> 国語科教科書指導書 雙学校小学部1年用～6年用 文部省

日常生活において、周囲の人々との関係の中で諸々の機微が理解できないということは、文章の読み取りに際しても人と人との関係や、登場人物の心情の読み取り等も困難になることにつながります。日常生活の様々な場面で、上記の「読みの基本12項目」を意識した言葉かけをしたり、環境設定の工夫をしたりすることが、「読み取る力」の基盤形成につながると考えます。ぜひ、実践してみてください。